

自動車運転事故を起こしたヒトの傾向

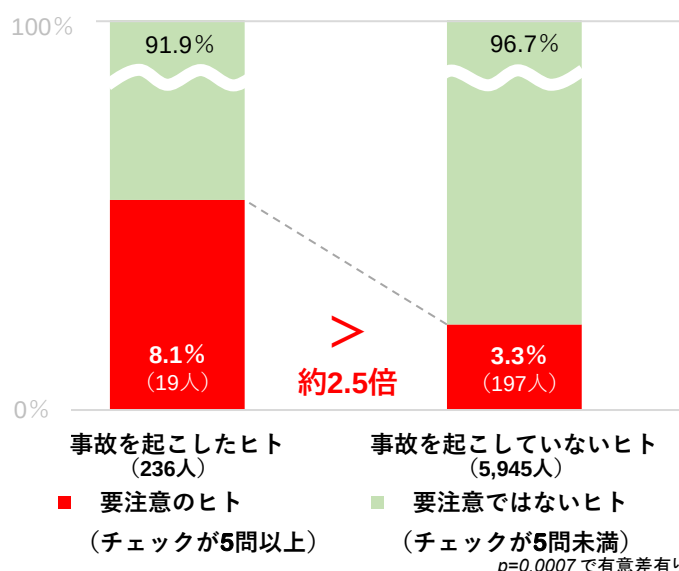
2022.7.19

自動車運転事故と身体機能低下の関係

- 近年、高齢運転者の交通事故に関する多くの報道により、運転者の運転能力や運転免許所持の是非を問う社会的な関心は高くなっています。
- 前々回は、「日々の運転でどの位“事故・ヒヤリ”を経験しているか？」をお伝えしました。そこでは、40歳から74歳の自動車・バイク運転者において年齢が高くなるほど事故やヒヤリとした経験者は減少傾向にあると報告しました。
- 75歳以上の免許更新手続きの改正など社会的に後期高齢者の運転対策は進んでいますが、その年齢に満たない運転者の対策は不要なのでしょうか？
- 安全な交通社会のためには、“ヒト”運転者の運転能力評価、“道”運転環境の整備、“車”運転サポート技術革新、と大きく3つの側面から対策が推進されています。
- ここでは、“ヒト”、40歳から74歳の運転者を対象として、自動車を運転して事故を起こしたヒトの身体機能に関する背景要因について報告します。

■ 認知機能と事故の関係 “事故を起こしたヒト”の傾向

認知機能が“要注意のヒト”の割合が 2.5倍多い



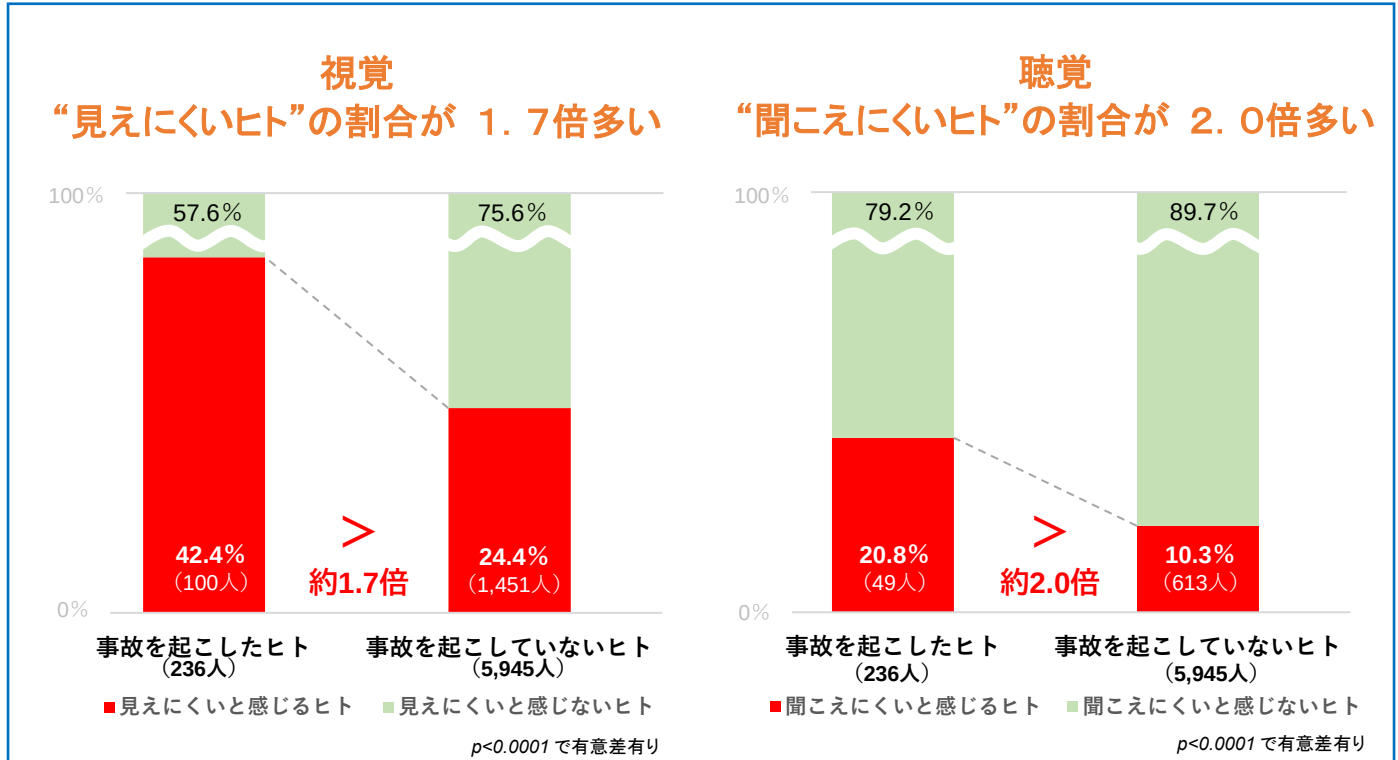
- ◆ 調査で用いた認知機能の評価方法は、30項目の質問票「運転時認知障害早期発見チェックリスト 30」です。
- ◆ これは、軽い認知機能障害の人が運転時に表われやすい事象をまとめた質問票で、5問以上該当する方は要注意とし、専門機関で診てもらうなどの目安として示されています。

※「運転時認知障害早期発見チェックリスト 30」
NPO 法人高齢者安全運転支援研究会 <https://sdsd.jp/>
(一社)日本認知症予防学会 理事長 浦上克哉 監修

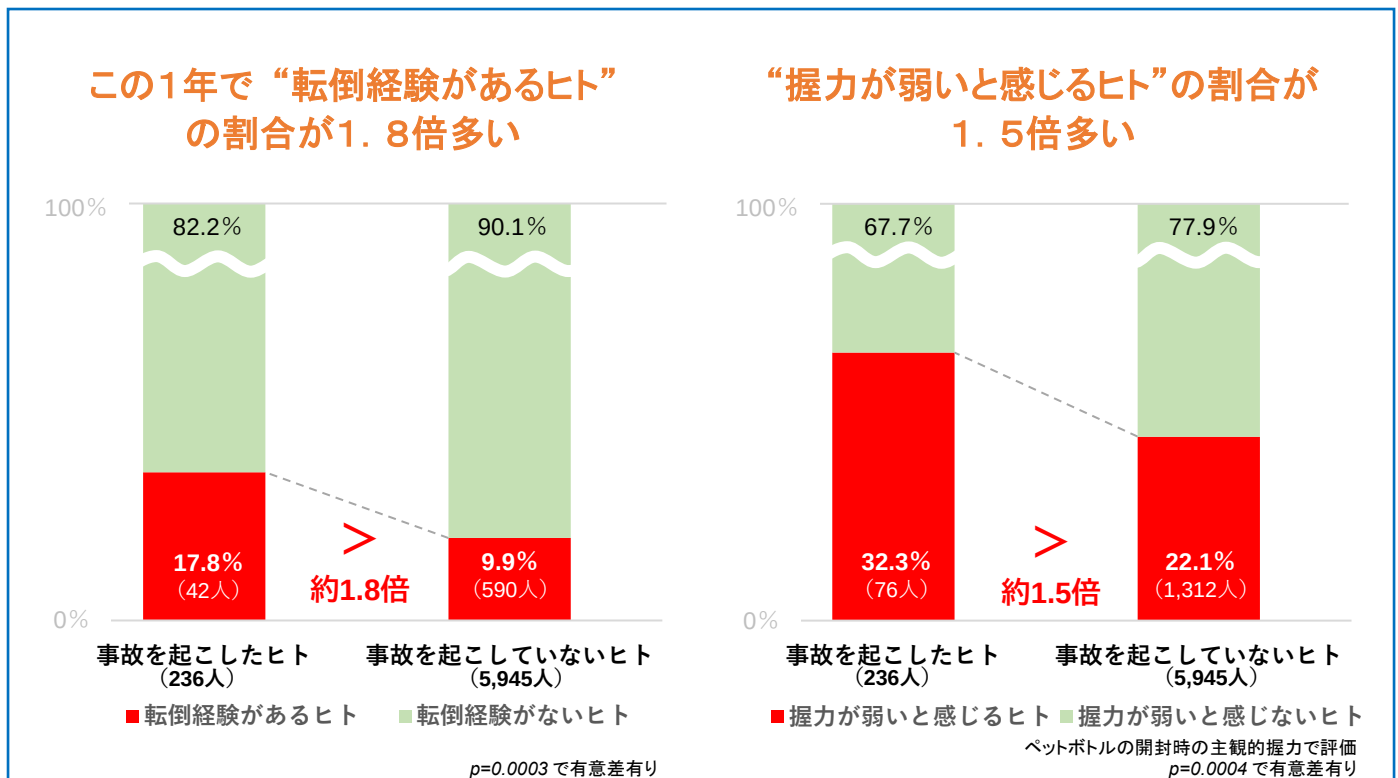
※ 2020年の1年間に事故を経験した236人(以下、事故を起こしたヒト、という)と事故の経験がなかった5,945人(以下、事故を起こしていないヒト、という)に分け、認知機能と感覚器の機能(視覚と聴覚)そして運動器の機能の面から比較した結果を示しています。

自動車運転事故を起こしたヒトの傾向

■ 感覚器の機能と事故の関係 “事故を起こしたヒト”の傾向



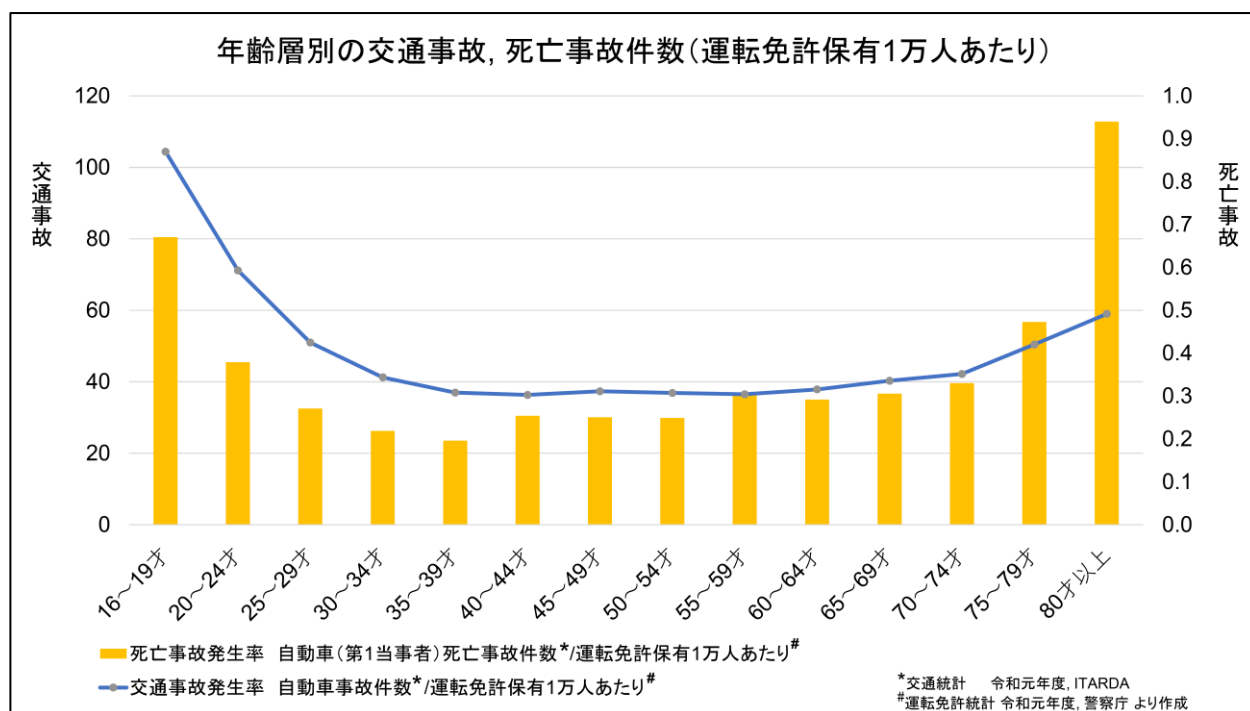
■ 運動器の機能と事故の関係 “事故を起こしたヒト”の傾向



自動車運転事故を起こしたヒトの傾向

Points

- ・ 認知機能や視覚・聴覚といった主観的な感覚器の機能、そしてこの1年での転倒の有無とペットボトルの開封時の主観的握力により評価した運動器の機能について、“事故を起こしたヒト”と“事故を起こしていないヒト”を比較しました。
- ・ “事故を起こしたヒト”では、認知機能、感覚器の機能、そして運動器の機能の低下を示すヒトの割合が多い傾向でした。
- ・ 75歳以上の後期高齢者の運転による死亡事故などの重大な自動車事故は依然として多く、運転免許更新制度が改正されました。しかし、75歳未満の運転者も年齢層を問わず自動車事故を起こしています(運転免許保有1万人あたり)。



- ・ 今回検討した対象者は、ネット調査に参加した40~74歳のヒト達です。調査結果では、そのような社会参加に積極的なヒトも事故を起こしていました。
- ・ 自動車を運転して事故を起こしたヒトの身体的な背景要因として、認知機能、感覚器機能、運動器機能の低下が影響していることが示唆されました。
- ・ 自動車運転能力は、認知機能、感覚器機能の評価のほかに、これまであまり注目されていなかった運動器機能の面からの評価も大切かもしれません。